

中学校 特別支援学級 1～3年 特別の教科 道徳「ぽつん」

授業のねらい

- 二人の登場人物の心の変化に気づきながら、本当の親切とはどういうものかを考える機会とし、周りの人たちに優しく接しようとする実践意欲の礎とする。（資料：NHK for school 時々迷々「ぽつん」を使用）
- 対面授業をする教室とタブレット端末を遠隔で使う教室に生徒を分け、疑似的に学校と家庭をオンラインで結ぶハイブリッド授業を行い、その実効性を検証する。

「ハイブリッド授業」でのICT活用の工夫

（１）遠隔の生徒への資料や板書の提示方法

- 遠隔の生徒が動画資料を見る場合、自身のタブレット端末で視聴ができるようにするため、資料のURLを送る。
- 生徒に対して、「何分何秒のシーンまで見るよ。動画を見終わったら会議に戻ってね。」というように具体的な指示をする。
- 教員が、生徒の思考の手助けとなる場面絵やセリフをプレゼンテーションソフトで事前作成し、遠隔の生徒に画面共有で送り、対面の生徒も同時に視聴できるようにする。



↑【資料提示の様子】

（２）対面の生徒と遠隔の生徒との関わり

- 生徒同士の関わりを確保するために、教員（主催者）のタブレット端末を電子黒板に接続し、遠隔の生徒の顔を電子黒板に映せるようにする。

※通信トラブルのため、当日の授業では実施できなかったが、代わりに対面の教室をタブレット端末で撮影し、遠隔の教室の生徒に送る方法で実施した。

生徒の様子

- 遠隔の生徒に授業のねらいが伝わり、こちらからの呼びかけに答えるなど、授業に参加することができた。
- 特別の教科 道徳の授業として、生徒が授業のキーワードを捉えて考えることができた。また、登場人物の気持ちを考えることができ、生徒一人一人の感じ方の違いが分かり、共に考えることができた。



↑【遠隔授業の様子】

成果

- プレゼンテーション資料は、生徒の思考の流れを明確にし、ねらいに到達することに有効であった。
- 資料の区切り方とその提示の仕方も、登場人物の気持ちの推察に効果的であった。
- 生徒にとって、授業の流れを明確にし、課題提示を分かりやすくすることで、遠隔の生徒も対面の生徒と関係なく、関心・意欲を維持して授業に参加することができた。



↑【対面授業の様子】

課題

- 通信トラブル等でハイブリッド授業やICT活用ができない可能性があるため、事前に代案を想定するとともに、必要に応じて、事前に生徒や保護者等に対して代案を周知することも必要である。